第Ⅳ部門　　街路空間における祭祀景観の演出に関する研究
—大津祭をケーススタディーとして

立命館大学理工学部　正会員　　笹谷　康之
立命館大学理工学部　学生会員　　○汐見　昌子

1．はじめに

通常、街路整備をはじめ土木事業において、一年にたった一度の祭祀時を考慮して計画・設計が行われることは希である。しかし、祭りは地域コミュニティーの結束を強め、また地域のアイデンティティーを表現する場でもある。そうした祭りの舞台である街路は祭祀空間として祭りを引き立ててきた。そこで本研究では、街路にて曳き山巡行を行う大津祭のコンクール写真を用い、祭祀演出に必要な要素やその要素の映える構図を明らかにすることを目的とする。

2．研究手順

本研究では、都市内街路を祭祀空間として使用する「大津祭」を事例に、それに合わせて催される「大津祭写真コンクール」入賞写真 82 点をテクストとして用い、以下の手順で分析を行なう。

① 祭祀演出要素を抽出し、その要素が日常空間から祭祀空間へと変化する時、どのように演出に関わるかを明らかにする。

② 視点場から主対象までの視距離による分析とその主対象の捉え方により「祭祀演出要素が映える構図」を分類し、抽出された各タイプの効果とその維持・育成への留意点を整理する。

3．祭祀演出要素の抽出とその特徴

表１：祭祀を演出する加える要素・隠す要素

空間	加える要素	隠す要素
街路	曳き山とその胴幕・見送り幕	自動車（走行車両）
	宵宮曳き山展示時の柵	自動車（駐車車両）
	露店	自転車
	提灯（多数吊下げ式）	車止め
	昔の写真・絵図の展示	信号機
		道路標識
建築空間	窓部の毛氈	窓格子
	２F窓から見える屏風飾り	窓簾
	軒の提灯	窓ガラス
	軒の幔幕	１Fの駐車場の駐車車両
	玄関の棕	
	ノボリ	
	会所の人形飾り	
	御幣	
	注連縄	
オープンスペース	駐車場の露店	駐車場の駐車車両
	駐車場のテント	
	駅前広場の椅子	

各写真から祭祀演出要素を抽出し、それらが日常空間から祭祀空間へ変化する際、どのような演出効果をもたらすか考察すると、祭祀時に日常物を飾るために「加えられる要素」と一時的に移動したり何かで覆い隠されるなどして「隠される要素」があることが分かる。その結果を以上の表１によって整理できた。

注）表１には、現地にて実施した補足調査結果を含む。

4．祭祀演出要素が映える構図の類型

撮影者が主対象である祭祀要素をどのように捉えているかその構図を把握するために「映える景」として抜き取ったコンクール写真を用い、以下の方法で分類を行った。

① 各写真において、主対象を以下の優先順位にて判断し定める。
　ⅰ）作品の題名
　ⅱ）中央部に移っている要素
　ⅲ）写真の広面積を占める要素

② 視点場からその主対象までどの程度の視距離で捉えているのか分析する。その分類に当たっては、通常用いられる「遠距離景」「中距離景」「近距離景」という指標[1)]を参考にして、主対象が「人物」「モノ」の各々について以下に定めた指標により分類する。

表２：視距離の指標

人物	至近距離	人物の表情がよく分かる範囲
	近距離	人物の顔の識別ができその人物の行動を捉えた範囲
	中距離	主に団体行動として人物を捉えその行動がおおむね分かる範囲
モノ	至近距離	「飾り」のディテールがよく分かる範囲
	近距離	曳山などの大型飾りを捉えた範囲
	中距離	大型飾りを群として複数捉えた範囲

③ その主対象の捉え方、視線鉛直方向はどうであるかによって分類し、祭祀演出要素の映える構図とその演出効果を明らかにする。

上記方法により抽出・分類された「祭祀演出要素の映える構図」各タイプを図１に示す。尚、各タイプに示した写真はその一例である。

Yasuyuki SASATANI , Masako SHIOMI

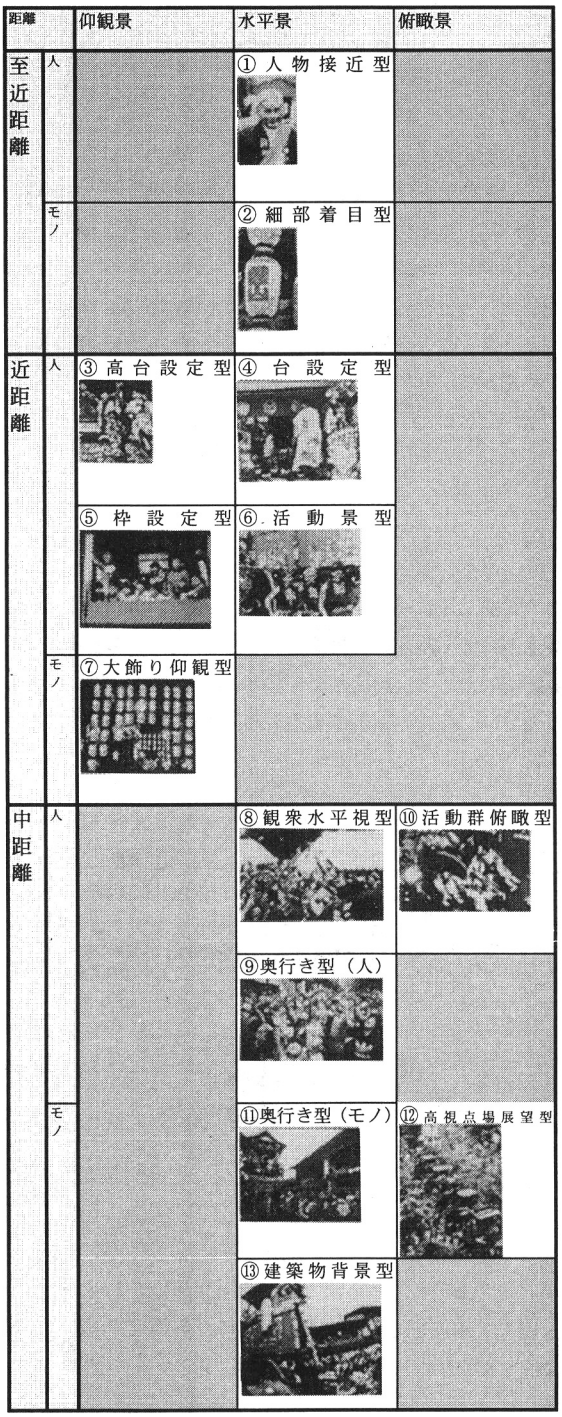

図1：抽出された「演出要素の映える構図」のタイプ

*図1*に示された抽出された「祭祀演出要素の映える構図」各タイプの演出効果の特徴を*表3*に整理した。また、その各構図を維持するために、留意する点を*表4*にまとめた。

表3：構図の演出効果特徴

距離	タイプ	視点場	対象場	特徴
至近	①人物接近型	街路	街路	接近し人物をアップで捉え表情豊かに表現する構図
	②細部着目型	街路	街路	祭祀飾りのディテールに着目し祭らしさを表現する構図
近	③高台設定型	街路	曳山上	観客の視点で曳き山上の人を仰ぎ見る構図
	④台設定型	窓	曳山上	町家2Ｆ窓の観覧者の視点で曳き山を見る構図
	⑤枠設定型	街路	窓	町家2Ｆ窓の観覧者を見上げる構図
	⑥活動景型	街路	街路	祭の行事活動をする数人を捉えた構図
	⑦大飾り仰観型	街路	街路	多数吊り提灯、曳き山など大型飾りを見上げる構図
中	⑧観衆水平視型	街路交差点	街路	交差点のスペースにより、観客の盛り上がりをワイドに見る構図
	⑨奥行き型（人）	街路	街路	道なりに続く観客のにぎわいを奥行き方向に見た構図
	⑩活動群俯瞰型	建物2F	街路	建物から集団活動を鉛直に見下ろす構図で、曳き手の連帯感を示す。
	⑪奥行き型（モノ）	ＯＳ	街路と窓	ＯＳがあることにより引きが取れ、奥行き方向に連なる曳き山の群を見る構図
	⑫高視点場展望型	建物5F程度	街路	高位置から見ることにより得られる広がりのある構図
	⑬建築物背景型	建物軒	街路	街路上の曳き山に建築物（２Ｆ窓等）を背景として引き立たせる構図

表4：留意点

タイプ	留意点
①人物接近型	*1
②細部着目型	*2
③高台設定型	視点場となる街路の交通規制の存続
④台設定型	視点場である２Ｆ窓の保護
⑤枠設定型	視対象である町家の2F窓の保存
⑥活動景型	視点場となる街路の交通規制の存続
⑦大飾り型	看板、電柱類の排除
⑧観衆水平視型	視点場となるオープンスペースの維持
⑨奥行き型（人）	軒線連続性の維持、看板・電柱等の排除
⑩活動群俯瞰型	視点場となる2Ｆ窓部の保護、背景となる道路舗装面の改良
⑪奥行き型（モノ）	軒線連続性の維持、看板・電柱等の排除
⑫高視点場展望型	視点場となる建物からの視線を遮らない程度にビルの配置を配慮、連続性を補完する並木の維持
⑬建築物背景型	背景となる町家建築の維持、視点場である軒等の保持

*1, 2は至近距離であり、ほとんど背景を含まないため街路景観には関連が希薄である。よって、本論文では扱わない。

5．まとめ

本研究での結論は以下のとおりである。

・祭祀演出要素を抽出した結果、祭祀演出は日常時に比べ加える要素と隠す要素の両方で行なわれているという特徴を示した。

・大津祭における「祭祀演出要素が映える構図」を13タイプに分類し、その演出効果の特徴を明らかにした。

・抽出された構図を保持するための留意点を示した。

6．今後の課題

本研究では、写真をテクストとして分析を行ったが、その場合以下の問題点をどう扱うかを今後の課題としたい。

① シークエンス景観などの動的な視点が写真という静止画像では把握しきれない

② 写真は、実空間では3次元のものを2次元で表現するため、撮影者の視覚そのものを表すとは限らない

参考文献：[1] 樋口忠彦(1975)「景観の構造」技法堂出版